

かわらばん

# まちえんながの

第 20 号

6 月 1 日(日)

発行

まちの縁側育み  
プロジェクトながの

長野市ボランティア

センター内

TEL 227-3707

FAX 224-1513



新シリーズ

まちの縁側の可能性をさぐる

# 人がマッピになる！

VOL...2

## 篠ノ井唐臼区の事例から

長野市南部、篠ノ井の唐臼区では、平成18年から「まちの縁側づくり」を推進しています。

もともと唐臼区では、25年前に福祉部会を立ち上げ小地域福祉活動に取り組んできた歴史があります。柳原静子さんは、その中心メンバーとして活動してきました。民生委員と福祉推進委員を長年続けてきた経験から「民生委員は、個の関わりで、個人の課題解決に望む立場であり、福祉推進委員は、地域の課題に組織として取り組むことができる立場である。」と言います。民生委員だからこそ見えてくる個人の困りごとを、地域全体の課題として捉えることが唐臼区の福祉の向上になると福祉部会で様々なことに取組んできたのです。



まちの縁側実践講座で唐臼の良いところ探し！

## ご近所力の復活を目指して

毎月11日に開かれるふれあいサロン「いい唐いい唐よつて亭」もその一つです。

そうした中で、平成22年には、まちの縁側実践講座を唐臼区主催で開催し、ひと昔前のような「近所」のつながりを取り戻し「近助力」を高めようと考えたのです。



サミットで話し合うみなさん

講座では、「地域をよくしたい、人とのつながりを大事にしたい」と日頃から感じている『縁側人』たちがたくさんいることがわかりました。その縁側人が集まる「縁側サミット」を毎年3月11日に開催。地域づくりについてみんなで考える研修の場です。初めてのサミットを行なった日に東日本大震災が起こり、人とのつながりの大切さを改めて感じた柳原さん。「いざという時に紙の地図は役に立たない。人がマッピにならないければ。」と、明言を残しています。

## 支えあいマッピでつながりを確認

そこで4回目のサミットとなった今年は、人と人の関係を地図で確かめ合う「支えあいマッピづくり」を行いました。前代未聞の大雪をご近所同士で助け合った様子を地図の上に表していくと、普段の様子が見えてきます。買い物や草とり、年齢に関係ない助け合いや意外な人とのつながりも。孤立する人がいないように縁側人たちが日ごろから緩やかに気にかけて合っていることが確認できました。柳原さんは、「こうしたことをやり続ける、小さな積み重ねが唐臼の福祉力を高めてきました。」と、今後も意識を持ち続けるための仕掛けをしていきたいと話します。



支えあいマッピで書き出したご近所の関係

